

I 地域の概要

1 地域の状況

- ◇ 西北地域は、青森県北西部に位置し、五所川原市、つがる市、西津軽郡の鰺ヶ沢町及び深浦町、北津軽郡の板柳町、鶴田町及び中泊町の2市5町から構成されています。
- ◇ 総面積（令和8年4月1日時点）は1,794.39 k m²で、県全体9,645.11 k m²のうち約19%に当たります。（資料：「令和8年度全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」（国土地理院 HP））
- ◇ 人口（令和8年3月1日時点）は、118,241人で、県全体1,138,345人の約10%に当たります。
（資料：青い森オープンデータカタログ 青森県の推計人口 令和8年3月1日）

2 地理・気象の状況

【地理】

- ◇ 地域の南部には、岩木山がそびえ立ち、その西側に世界自然遺産の白神山地が連なっています。山地の西側は日本海に面する海岸段丘地形となっており、そこから北に向かって七里長浜海岸沿いに屏風山砂丘が発達しています。砂丘の東側には砂丘と津軽山地に挟まれた低湿水田地帯、津軽平野が展開しています。
- ◇ 津軽平野のほぼ中央を北流する一級河川岩木川は、左岸のつがる市と西津軽郡、右岸の五所川原市と北津軽郡をほぼ分けており、約2万 haの水田を潤しながら河口の十三湖へと注いでいます。西海岸の山地からは中村川、赤石川、追良瀬川などの二級河川が日本海に注いでいます。

【気象】

- ◇ 気候は日本海側気候で、総じて冬期の積雪が多くなっています。西北の令和7年の年合計降水量は1566mm、年平均気温は12.3℃、かんがい期（5～9月）の平均気温は22.0℃となっています。（資料：「気象庁 HP」）
- ◇ 平野部の夏季は全体として内陸型の高温多湿となっていますが、北部では「ヤマセ」の影響を受け低温となることがあります。冬季は雪の日が多く、内陸部では日本海からの強い西風で「地吹雪」が多発します。西海岸側は暖流（対馬海流）の影響で年間を通じ比較的気温が高く、冬から春にかけて西風の強い日が多くなっています。

